

# 日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き

(平成23年4月1日 日本獣医師会)

## 1 目的

本手引きは、日本獣医師会学会学術誌投稿規程（以下「投稿規程」）に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

## 2 投稿資格及び条件関連

- (1) 筆頭著者は、日本獣医師会構成獣医師もしくは賛助会員（個人に限る）でなければならない。それ以外の者が筆頭著者の場合は、投稿料を徴収する（投稿時審査料10,000円、採用時掲載料50,000円を納入する）。ただし、編集委員会が認めた者については、この限りでない。
- (2) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。
- (3) 投稿原稿は、獣医学が扱う臨床、動物衛生、食品衛生、環境衛生、人と動物の関係、獣医学教育、動物用医薬品・機器等を内容とする獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし、委員会において、掲載に相応しい学術分野を指定する。
- (4) 他の学会誌等に投稿中、もしくは発表した論文等は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。

## 3 投稿要領関連

- (1) 投稿（初回）の際は、所要事項を記載し、著者全員の署名した投稿票を必ず添付する。
- (2) 投稿原稿は、4部を提出する。
- (3) 原稿は、A4判用紙を使用し、1頁（片面）を25字×24行の横書きで、明朝体を用いページを付す。
- (4) 原稿の枚数は、表題、和文要約、英文要約（SUMMARY）、本文、図（写真を含む）・表等すべてを含めた枚数で、投稿区分の規定枚数は、別表のとおりとする。
- (5) 特に図、表は、本文との兼合い（枚数、印刷時の大きさ）を十分考慮し、規定枚数内に納める。
- (6) 以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

【別表】掲載区分と投稿原稿の制限枚数及び刷り上り頁枚数

掲載区分	投稿原稿制限枚数 A4判ワープロ等 (25字×24行)	刷り上り頁数
総説	24枚	6頁以内
原著	20枚	5頁以内
短報	16枚	4頁以内
技術講座	16枚	4頁以内
資料	8枚	2頁以内

## 4 執筆要領関連（原著及び短報）

### (1) 用語：

ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り（例：人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等）、それ以外のはカタカナで表示する。

イ 薬品名は、原則として一般名もしくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する。

ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品（製品）名及び社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる（商品（製品）名、社名、都道府県名の順／例：ニチジュウワクチン、日獣製薬株、東京）。

### (2) 表紙（第1頁）：

ア 最上段左側に部門名、希望投稿区分及び「新規」（新規投稿原稿の場合）あるいは「継続」（継続審査原稿の場合）の表示を赤字で明記する。

イ 次いで、表題、著者名、所属機関名（大学は学部名、都道府県勤務は支所名（本所は部名）、までとし、「〇〇動物病院」⇒「〇〇県 開業」（県名は所属獣医師会または所在地名）、「株式会社」⇒「株」、 「社団法人」⇒「社」、 「財団法人」⇒「財」、 「独立行政法人」⇒「独」とする。）及び所在地住所（郵便番号を含む。併せて、実際の動物病院名も記す。）を和文で記載する。

ウ 表題は原則として副題、括弧、略号、「～について」、「～に関して」等は付けない。

エ 最下段には連絡責任者の所属（大学は教室名、都道府県勤務は係名まで、動物病院等は、実際の名称

を記載), 住所, 電話番号 (ファックス番号), メールアドレスを記入し, 別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する.

オ 表題が28字を超える場合には, 28字以内の柱(ランニングヘッド)を記入する.

### (3) 和文要約 (第2頁):

字数は360字以内とし, 要約の最下段には, 原著では5語以内, 短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する.

### (4) 英文 SUMMARY (第3頁):

ア 英文の表題, 著者名, 第1著者の所属機関名, 所在地住所 (郵便番号を含む), SUMMARY及びKey wordsを記載する.

イ SUMMARYは, 250ワード以内とし, 行間を広く空けてタイプする.

ウ SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする.

エ Key wordsは, SUMMARYの最下段にABC順で記載する.

### (5) 本文 (第4頁以降):

ア 原則として, ①緒言 (見出しは付けない), ②材料及び方法, ③成績, ④考察, ⑤引用文献の項目に区分して記述し, 数字を用いて項目分けしない. (ただし, 短報では必ずしも, この区分で記述する必要はない).

イ 実験動物等の取り扱いについては, 所属研究機関の動物実験ガイドライン (指針) に沿って動物に苦痛を与えないように実験を行った (または動物実験委員会の許可を得て実験を行った) 旨を明記した上で, 動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記述し, 当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し, 併せて動物の入手方法と飼育状況を具体的に記載する.

ウ 図 (写真)・表

(ア) 図 (イラストレーションを含む) は, 黒インクでA4版の白紙または青色方眼紙を用いて, 表題を付け, 原図から直接製版できるものとする.

(イ) 表は, 縦罫線を入れない.

(ウ) 写真は, 白黒でコントラストの明瞭なもの (カラーの際はモノクロ印刷でも明瞭なもの) とし, 表題と簡単な説明を付け, 原寸印刷が可能ないように必要部分を横7.8cm, 縦6.0cmまたは横

15.5cm, 縦10.0cmに整形して台紙に貼付する (全体を糊付けするのではなく, コーナーのみを糊付けする). なお, デジタル画像を用いる際は, 明瞭な印刷ができるように光沢紙等の専用紙を用いる.

(エ) 写真には図と同様に一連の番号を付け, 初回投稿時には4部すべての原稿にオリジナルを添付する.

(オ) 図及び表は, 1点を1枚の台紙に貼付し (デジタル画像で光沢紙等を用いる際も同様), 写真とともに原稿の最後にまとめて添付する. さらに, それらの挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記する.

エ 引用文献

(ア) 引用できる文献は, 学会誌, 専門的学術誌あるいは専門書とし, 学会抄録, 講演会テキスト, レフリー制度のない商業雑誌の他, 大学, 研究機関, 団体の年報・報告書・会報, 関係省庁の法令・事業報告, 辞書・辞典等, また, ホームページは原則として引用できない.

(イ) 本文中では, 著者名の直後等, 引用箇所に [1, 2-5] のように記載する.

(ウ) 文末に, 本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく. ①雑誌の場合は, 著者名 (全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁 (1箇所のみ), 年次 (カッコ書き) とする. ②単行本の場合は, 著者 (著者が複数の場合は, 引用した著者のみ), 記事のタイトル名, 書籍名, 訳者名 (1名のみ記載し, その他は和文では「他」, 英文では「et al」とする), 編者名, 版, 頁, 発行者, 発行地, 年次 (カッコ書き) とする. ただし, 著者名がない際は, 編者がいる際は編者名を, その他は, 学会, 研究会等の名称を記載する.

(エ) 和文誌名は原則として省略しない. ただし, 慣例的に使用されているものはこの限りではない (例: 日獣会誌, 日獣誌など).

(オ) 欧文誌名の省略は, Journal Title Abbreviationsによる. 指定のないものは省略しない.

#### 【雑誌の場合】

- [1] 青山太郎, 青山花子, 赤坂次郎: 子牛の開放性骨折の1例, 日獣会誌, 45, 115-120 (1992)
- [2] 青山太郎, 青山花子, 江戸三郎, 東京 愛: 犬のレプトスピラ症の抗原検出法, 日獣誌, 30, 135-138 (1992)

- [3] Aoyama T, Aoyama H : The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)
- [4] Aoyama T, Aoyama H, Kanda J : A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
- [5] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y : Pathogenicity of the aino virus in Japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

【単行本の場合】

- [1] 神田一郎：マイコプラズマ，獣医微生物学，江戸三郎編，第1版，100-103，青山堂出版，東京（1992）
  - [2] Smith J：マイコトキシン中毒，選択毒性，赤坂次郎訳，250，学会出版センター，東京（1989）
  - [3] Roitt IM：Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)
-